| 学校番号 | １１１ |
|---|---|

令和２年度　公民科

| 教科 | 公民 | 科目 | 倫理 | 単位数 | ２単位 | 年次 | 2/3 年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 高等学校　改訂版　倫理　（第一学習社） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・古今東西の思想の流れを、古代から近現代にかけて学びます。
・日々直面する問題を解決する為に、各自の中で、思想は生まれ育ちます。しかし無から生まれるのではなく、様々な経験を通して、学習を通して、自らの思想を作ります。
・ギリシア哲学、諸子百家、西洋近代哲学…、過去の先達との対話は大きな刺激となります。
・現代の生活感覚との関連を配慮し重視します。
・明治以降の日本の思想史についても学んでいきます。

２　学習の到達目標

・過去の思想が、現代の人々の思想に流れこんでいることを理解する。
・様々な文化圏の人々の考えを理解する一助とする。
・自分自身の言葉で理解することを重視し、思想史に対する興味・関心を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:資料活用の技能 | d:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 自分自身の現在・将来の問題や生き方の答えを探求する中で、過去の先達と対話する姿勢を身につけているか。 | 過去の思想をそのまま現在にあてはめるのではなく、過去の社会構造との関連で把握し、現在との接点を考える。 | 過去の言葉を、自分自身の生活体験、感覚を基本に自身の言葉で言い換え、理解を深める。 | 各思想の基本を、キーワードを中心に理解する。社会との関連、思想史の流れとの関連で、それぞれの特徴を理解する。 |
| 評価方法 | レポート<br>ノート | 定期考査<br>ノート | 定期考査<br>ノート | 定期考査<br>ノート |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 1学期 | 思想の源流 | ギリシア思想<br>諸子百家 | <br>○ | ○<br>○ | ○<br>○ | ○ | a:ヨーロッパ、中国の古代思想が、現代にも影響を与えていることに関心を示し、西洋思想と東洋思想、又、現代思想と古代思想を比較する<br>b:それぞれの時代の社会構造との関連を考え、その思想の特色を表現する<br>c:教科書本文、資料、プリントなどの学習を通して、その要点を自ら確認する。<br>d:「アルケー」、「イデア」、「形相」、「礼」、「道」等キーワードを中心に、その思想の基本を理解する。ギリシア思想では、自然哲学→道徳の発見→イデア論→形相と質料→世界市民主義」の流れ、諸子百家では、儒教と老荘思想を中心とした各思想の比較を重視する。 | 定期考査<br>ノート |
| | | 仏教<br>キリスト教<br>イスラムの教え | ○<br>○<br>○ | ○<br>○<br>○ | | ○<br>○<br>○ | a：国際社会を理解する為に、それぞれの地域の宗教に関心をもち、日本の思想と比較する。<br>b:世界史の中で、各宗教が果たした役割と、現代社会の中で与えている影響について考え、西洋文明、東洋文明、イスラム文明の特色に思いをめぐらす。<br>C: 教科書本文、資料、プリントなどの学習を通して、その要点を自ら確認する。<br>d:縁起思想と仏教モラルとの関連、キリスト教が世界宗教に発展する過程、世界政治の中でイスラム社会が占める位置を中心に、各宗教の特色を理解する。 | 定期考査<br>ノート |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2学期 | 近代西洋思想 | 経験論と合理論<br>ドイツ観念論（カント、ヘーゲル）<br>ヘーゲル以降 | <br><br>○ | ○<br>○ | ○<br>○ | ○<br>○<br>○ | a:近代社会の成り立ちに関心を示し、近代的モラル、近代政治思想を前近代と比較する。<br>合理的推論、実験・観察の重視など近代的精神の形成過程に興味をもつ。<br>b:カントが、経験論と合理論の総合であること、ヘーゲルが、カント以降のドイツ観念論の総決算であることを理解する。<br>現代西洋思想の展開がヘーゲルを分岐点にすることを理解する。<br>c: 教科書本文、資料、プリントなどの学習を通して、その要点を自ら確認する。<br>d:「意識―物質」「主観―客観」の対抗を軸に、それぞれの思想の特色を理解する。 | 定期考査<br>ノート<br>レポート |
| 3学期 | 近代日本の思想 | 明治の啓蒙思想<br>日本社会とキリスト教<br>社会思想の展開 | ○<br>○<br>○ | <br>○<br>○ | | ○ | a:日本の近代化と西洋近代思想の受容の関連に注目し、制度・思想の両面から日本の封建制と近代化の葛藤に興味をもつ。<br>b:日本社会の民主主義の成熟度という視点から、思想史の面から日本の近代化の特色について考える。<br>c: 教科書本文、資料、プリントなどの学習を通して、その要点を自ら確認する。<br>d: 自由民権運動、明治憲法の成立、日清戦争、日露戦争との関連で、明治思想の流れを考える。 | 定期考査<br>ノート |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。